

被服生活の実態について (第4報)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 孝子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10232/7428

被服生活の実態について (第4報)

小林 孝 子

On the Actual Conditions of Clothing Habits (4)

Takako Kobayashi

I. は し が き

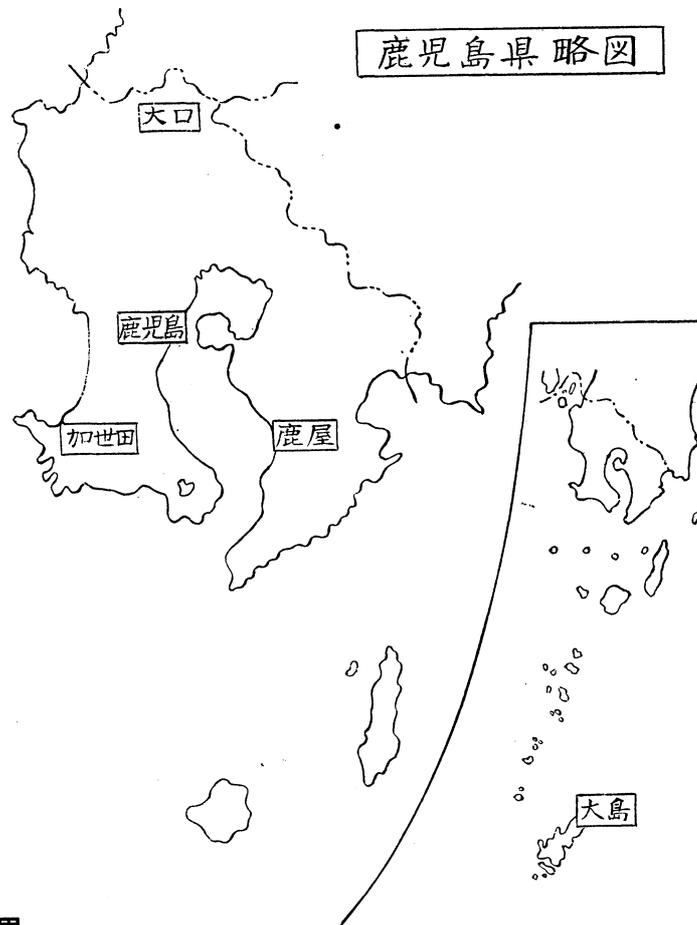
昭和40年度の国民生活白書¹⁾は、「31, 2年以降拡大基調にあった衣料消費が38年ごろから次第に増勢が鈍化し、40年には29年以降はじめて1.2%減と前年の水準を下まわった」と報じている。そしてこの衣料消費の停滞の理由として、「第1に衣料ストックの増大、第2に最近の消費者物価の上昇により、支出弾力性の高い被服費支出の停滞、第3に合繊製品の普及率の向上に伴って被服の耐久性が高まったこと」などをあげている。そしてさらに「このような動きの中においても、衣料消費のしゃしの性格は今後とも強まると思われるが、また一方、実用的衣料について規格化、量産化された良質で安い品の消費が増大し、使い捨て、はき捨ての傾向が強まるであろう」と述べている。

私は日本列島の最南端であって高温であるという地理的・気象的条件と、全国的にみて所得水準が高いとはいえぬ経済的条件を有する鹿児島地方の、被服生活の実態をはあくして家庭科教育に資するため、その調査を続けているものである。今回もさらに鹿児島県の次の5地区について前回と同様の調査を行ったのでその結果を報告する。

ただし今回も前回と同様、家事労働合理化の一つとしての既製品の普及に関する洋服・和服の製作についてのみ報告する。

II. 調査について

1. 調査時期 昭和40年7月～8月
2. 調査地区 大口市・鹿児島市・加世田市・鹿屋市および大島の笠利町の5地区
(図1参照)
3. 調査事項 被服の既製品の普及率・日常着と外出着の様式・その他10数項
4. 調査方法 調査用紙を5地区の農業高等学校長宛に郵送し、学校を通じて生徒に配布し、生徒の各家庭で記入してもらったものを学校で回収、返送してもらったもの回収率は75%で、その内訳は大口73・鹿児島75・加世田88・鹿屋70・大島68%



Ⅲ. 調査結果

A. 調査対象の構成について

1. 地区別

表1は調査対象を地区別にみたものである。これで見られるとおり5地区ともに18%~24%の間にある。

表1 地区別にみた調査対象 (%)

計	大口	鹿児島	加世田	鹿屋	大島
100	20	20	24	18	18

2. 家族の主な職業別

表2は調査対象を家族の主な職業別にみたものである。

この表に見られるとおり農家が約80%で他はきわめて少なくなっている。

表 2 家族の主な職業別にみた調査対象 (%)

	計	大 口	鹿 児 島	加 世 田	鹿 屋	大 島
計	100	100	100	100	100	100
農 業	78	74	58	92	95	70
林 業	1	4	—	2	—	—
漁 業	tr.	—	—	—	—	2
工 業	2	2	4	—	—	2
商 業	4	4	4	2	—	12
公 務 員	5	7	14	—	—	5
会 社 員	6	9	12	—	—	7
教 員	—	—	—	—	—	—
自 由 業	1	—	4	—	—	—
そ の 他	tr.	—	2	—	—	—
不 明	3	—	2	4	5	2

3. 筆頭者の学歴別

表 3 は調査対象を筆頭者の学歴別にみたものである。

表 3 によると、小卒が半分で中卒が19%、大卒は1人もいない。

表 3 筆頭者の学歴別にみた調査対象 (%)

学 歴 別	計	大 口	鹿 児 島	加 世 田	鹿 屋	大 島
計	100	100	100	100	100	100
大 卒*1	—	—	—	—	—	—
中 卒*2	19	23	17	27	14	12
小 卒*3	50	48	45	46	55	61
不 明	31	29	38	27	31	27

*1 大卒は旧制専門学校以上卒

*2 中卒は旧制中学校卒

*3 小卒は旧制の尋常・高等小学校卒

4. 収 入 別

表 4 は調査対象を粗収入別にみたものである。

表 4 によると60~70万が約10%で全国平均を上廻るものは5%である。

表4 収入別にみた調査対象 (%)

収入別	計	大口	鹿児島	加世田	鹿屋	大島
計 万円	100	100	100	100	100	100
10>	—	—	—	—	—	—
10<	5	2	3	9	—	10
20<	11	9	9	15	12	10
30<	9	11	7	9	12	7
40<	8	11	11	11	2	2
50<	15	23	4	9	26	12
60<	5	5	4	6	7	—
70<	4	7	—	2	5	7
80<	2	2	4	2	—	—
90<	tr.	—	—	—	—	2
100<	3	2	4	6	—	2
不明	38	28	54	31	36	48

B. 洋服と和服の製作について

以上のような対象の各家庭で成年男女・子供・赤ちゃんの下着類・和服類・洋服類を新調するのに、どの方法によるかを度数で示したのが表5である。

表5 下着・和服・洋服の製作について

		成年男子	成年女子	子供	赤ちゃん
下着	計	173	160	159	49
	家で作る	0	6	4	21
	仕立をたのむ	0	4	2	0
	既製品を買う	173	150	153	28
和服	計	148	159	132	44
	家で作る	80	74	93	26
	仕立をたのむ	36	50	8	2
	既製品を買う	32	35	31	16
洋服	計	180	182	175	47
	家で作る	3	25	11	9
	仕立をたのむ	55	59	14	0
	既製品を買う	122	98	150	38

表5から洋服と和服を取り出して、その製作方法を調べることにする。

1. 成年男女、子供、赤ちゃんと製作方法との関係

成年男子・成年女子・子供・赤ちゃんの間にどのような差があるかを調べるために表6・表7のような分割表をつくる。

1) 洋服

表6は洋服についてである。

表 6 洋 服

	成年男子	成年女子	子 供	赤 ち ゃ ん	計
家で作る	3 (15)	25 (15)	11 (14)	9 (4)	48
仕立をたのむ	55 (39)	59 (40)	14 (38)	0 (11)	128
既製品を買う	122 (126)	98 (127)	150 (123)	38 (32)	408
計	180	182	175	47	584

以下()内は理論度数である。

*²検定すれば有意水準 0.01 に対して有意である。

表6によると洋服は成年男子の場合は他に比べて家で作ることが少なく、仕立をたのむ傾向があり、成年女子では他に比べて家で作るや仕立をたのむ傾向が目立ち、子供の場合では仕立をたのむが少なく既製品を買うが多く、赤ちゃんの場合は仕立をたのむが少なく、家で作るや既製品を買うが多い。

2) 和 服

表7は和服についてである。

表 7 和 服

	成年男子	成年女子	子 供	赤 ち ゃ ん	計
家で作る	80 (84)	74 (90)	93 (75)	26 (24)	273
仕立をたのむ	36 (29)	50 (32)	8 (26)	2 (9)	96
既製品を買う	32 (35)	35 (37)	31 (31)	16 (11)	114
計	148	159	132	44	483

有意水準 0.01 で有意である。

表7によると和服は成年男子および成年女子の場合は他に比較して仕立てを頼む傾向があり、子供では仕立てをたのむが少なく家で作るが多く、赤ちゃんでは仕立てをたのむが少なく、既製品を買うか家で作るが多くみられる。

2. 成年男女・子供・赤ちゃん各々の場合

なお、以上のことを成年男女・子供・赤ちゃんの各々について分析すると次のようである。

表8-1から表8-4は洋服、表9-1から表9-4は和服である。

1) 成年男子の洋服

成年男子の洋服の場合は表8-1のとおりである。すなわち家で作るが少なく既製品を買うが多い。

表8-1 成年男子の洋服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
3 (60)	55 (60)	122 (60)	180

有意水準 0.01 で有意である。

2) 成年女子の洋服

成年女子の洋服については表8-2のとおりである。この表によると既製品を買うが多く家で作るが少ない。

表8-2 成年女子の洋服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
25 (60)	59 (61)	98 (61)	182

有意水準 0.01 で有意である。

3) 子供の洋服

子供の洋服については表8-3のとおりである。この表によると家で作る・仕立をたのむは少なく既製品を買うが多い。

表8-3 子供の洋服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
11 (58)	14 (58)	150 (59)	175

有意水準 0.01 で有意である。

4) 赤ちゃんの洋服

赤ちゃんの洋服については表8-4のとおりである。表8-4によると既製品を買うが多い。

表8-4 赤ちゃんの洋服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
9 (16)	0 (15)	38 (16)	47

有意水準 0.01 で有意である。

5) 成年男子の和服

成年男子の和服は表9-1のとおりである。この表によると仕立をたのむ・既製品を買うが少なく家で作るが多い。

表9-1 成年男子の和服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
80 (49)	36 (49)	32 (50)	148

有意水準 0.01 に対して有意である。

6) 成年女子の和服

成年女子の和服については表9-2のとおりである。この表によると既製品を買うは少なく、家で作るが多い。

表9-2 成年女子の和服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
74 (53)	50 (53)	35 (53)	159

有意水準 0.01 に対して有意である。

7) 子供の和服

子供の和服については表9-3のとおりである。この表によると仕立をたのむは殆どなく、家で作るが多い。

表9-3 子供の和服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
93 (44)	8 (44)	31 (44)	132

有意水準 0.01 に対して有意である。

8) 赤ちゃんの和服

赤ちゃんの和服は表9-4ののとおりである。この表によると仕立をたのむは殆どなく家で作るが多い。

表9-4 赤ちゃんの和服

家で作る	仕立をたのむ	既製品を買う	計
26 (15)	2 (14)	16 (15)	44

有意水準 0.01 に対して有意である。

IV. む す び

以上みてきたように洋服の製作については年齢・男女の別なく既製品を買う傾向が強いが、和服の場合は成年男女・子供・赤ちゃんともに家で作る傾向が強い。

前年の調査においては成年男女の洋服と女子の和服に仕立をたのむ傾向が強かったが本調査ではその傾向の減少がみられる。そして洋服の場合は、高価な注文服よりも品質・デザインが向上し²⁾ 経済的に流行をたのしめる¹⁾ 既製服を買う傾向が強くなっている。一方和服の場合は、仕立をたのむ傾向の減少が既製品依存とならないで、家で作る傾向となっている。

近年中学校の被服製作指導において和服製作は常に問題となりながらも軽視される傾向であったが、ミシンの使用などにより製作過程を簡略化して、中学校の段階で家庭着または休養着としての和服を気軽に製作できるよう指導することは必要であり、民族服を現代生活に生かす能力の育成ともなる³⁾。洋服と和服については家屋の構造、経済上の問題など多面の関係が考えられるので、この点については今後の研究にまわりたいと思う。なお、今回もこの鹿児島の数地区の調査でもって鹿児島県の被服生活の実態を云々することは早計であると思うので、さらにいろいろの地区にわたりまた調査対象もかえて、同様の調査を継続していきたいと思う。

本稿は昭和41年第18回日本家政学会総会で発表したものの一部である。

終りにこの調査をお願いした各高等学校長先生並びに家庭科担当の先生方に深く感謝します。

参 考 文 献

- 1) 経済企画庁編, “国民生活白書”, 昭和40年度版 (昭41, 1966)。
- 2) 通商産業大臣官房調査統計部編, “繊維統計年報”, 昭和40年, 50 (昭41, 1966)。
- 3) 小林孝子, “休養着の製作をめぐる”, “家庭科教育”, **39**, 11, 42, 家政教育社, 東京 (昭40, 1965)。

S u m m a r y

According to the investigations concerning the making of clothes, made of the five areas in Kagoshima Prefecture: Ōkuchi-shi, Kagoshima-shi, Kaseda-shi, Kanoya-shi, and Kasari-cho of Ōshima; the results are as the following:

Concerning the foreign clothes of men, women, children, and babies, most numerous were the answers replying that they were all bought ready-made.

Concerning the Japanese clothes, the answers most numerous replying that they were all made at home.